

ENSHOW NEWSLETTER

今月のテーマ

東北大震災の被害における建物調査

今回の調査から見えてきた震災における建造物への影響。今後の耐震対策など建築業界の進むべき道とは?

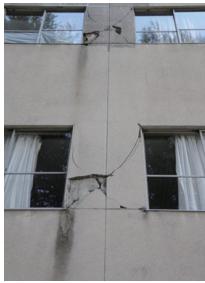
未曾有の自然災害を経験し建築業界の被害も大きい…
今後の建築も新たに見つめ直さなければならない

■ 目の前に広がる震災の爪痕

東日本大震災は、地震発生時刻2011年3月11日14時46分、震源地は三陸沖130km付近、震源の深さは24km、マグニチュード9、

宮城県栗原市で震度7を観測、津波の被害も甚大であり、岩手県、宮城県、福島県沿岸では壊滅的な被害がました。また、続く余震も頻繁に発生し被害の全容は未だ見えていないのが現状です。この地震での震度は福島市で震度5強、郡山市で震度6弱、東京は震度5強、名古屋は震度4、大阪は震度3を観測しました。報道では津波及び原発の被害が大きすぎニュースも被災者の避難生活やそれらを伝えるものがほとんどであり、内陸部での被害状況を伝える情報は少ないのでした。

震災から50日目に当たる4月28日、29日と福島市、郡山市の調査を行いました。ちょうど通行が可能となり交通網も整備がされました。調査の中心は福島市、郡山市の鉄筋コンクリート(RC)造、鉄骨造の非構造部を目視で行い、地震動によりどのような建築物被害を出したのかを確認しました。



壁にクラック



壁面のモルタルが剥がれ落ちる

福島市、福島県庁東分庁舎一号館、鉄筋コンクリート6階建て(1968年竣工)3階以下の柱及び方立て壁にせん断ひび割れが認められた。

【まとめ】
今回の調査対象地の震度は、5強～6弱でしたが、地盤が軟弱な地域場及び、昭和40年代前半に建てられた鉄筋コンクリートの建物に大きな被害が認められました。鉄筋コンクリートの柱の圧壊、座屈をみると、砕け散ったコンクリート片が砂のように細かく、骨材の形をとどめていないものが多く、補強等の対応を講じる必要があることを痛感しました。

また、古い建物であっても計画的な耐震補強工事を行った建物ではそれほど大きな被害はなく、継続的に使用可能な状態のものがほとんどでした。今後も古い建物では、積極的な耐震補強対策を行う必要がでることを認識しました。



2階部分が完全に崩壊

福島市、某大学本館、鉄筋コンクリート3階建て(1966年竣工)2階が崩壊し、3階も一部大破した。



一階南側は柱の形跡すらない



店舗付住宅外観

郡山市、鉄筋コンクリート造4階建て店舗付集合住宅、一階部分がピロティ構造でありすべての柱がせん断破壊を生じ倒壊した。主筋はφ20であり、帯筋はφ10であった。



柱の崩壊



2階建てコーコー階部分の崩壊



オフィスビル柱のせん断

鉄筋コンクリート造、鉄骨造では一階部分、特にピロティ部分の構造層が崩壊した重大な被害のものがみられた。非構造部分では壁の仕上げ材の脱落やクラック、ガラスの割れる被害が多くみられた。木造住宅では棟瓦がずれ落ちる被害が多数みられ、雨漏りを防止するためのブルーシートでの養生が目立った。



鉄骨造3階建て外壁の脱落

社会問題・環境問題
に目を向けよう!

この度、3月11日に発生した東日本大震災より被災された方々に、お見舞いを申し上げるとともに、皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。

弊社といしましても、微力ではありますが、関係各位と連携を取りながら、復興支援に取り組んでまいります。

株式会社 円昭 スタッフ一同

2011年6月発行
発行:前田由紀夫
編集:(株)バブルス
株式会社円昭HP



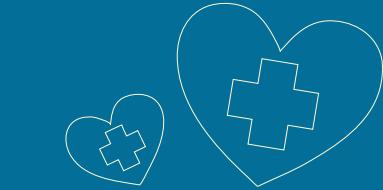
知識の泉

今号のテーマ “支援のありかたについて”

東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市の気仙大工を支援するため、あいけん（愛知建設労働組合、愛知県建設産業協会、愛知県建設センター）が陸前高田市の大工たちに、のこぎりや金づらなどの工具を支援しました。この支援は、「あいけん」と講演会などを通じて交流のある東京大学名誉教授内田祥哉先生を通じ、東北工業大学高橋恒夫教授からの要請に応えたものです。支援した工具などは、5月2日に「あいけん」の組合員・会員に協力依頼の案内をし9日（月）～13日（金）までの5日間受付を行い、集めた工具は、現在使用していないがすぐに使えるように調整を済ませた工具約150点で、2トントラック

に積み込んで運びました。物資の引き渡しでは、陸前高田市の戸羽太市長が支援した工具を確認し、「この物資で気仙大工達も頑張ることが出来る。愛知県の職人に大変感謝する。」との言葉を頂きました。また、工具を渡した気仙大工建築研究事業協同組合小泉信雄理事からは、「大工にとって工具は体の一部。喪失感が大きかったので感謝している」との言葉を頂きました。

物資引き渡しを終え仙台市へ移動し、東北工業大学高橋恒夫教授を訪問して、情報交換および陸前高田市や気仙大工の歴史、被災時の支援のあり方等について話し合いを行いました。



陸前高田では物資はあるが道具が無く、建築職人がなにも出来ない空虚な時間が過ぎていました。眠っていた道具類が息を吹き返し、復興のために汗を流す地元の職人の姿が目に浮かびます。これが必要なところへの必要な支援ではないでしょうか。

今回物資支援協力のお願いからわずかな期間の中で、多くの大工道具・電動工具等をお届け頂いたあいけんの皆様に心から御札を申し上げます。また、被災された皆さまの一 日も早い復旧復興をお祈りします。



気仙大工の皆さん



支援物資



陸前高田戸羽太市長と共に

コ・ラ・ム ノンリコースローン

借入人が保有する特定の不動産等の資産から生ずるキャッシュフローのみを原資に債務履行がなされる融資をいいます。

ノンリコースとは、その資産以外に債権の取立てが遡及しないという意味です。不動産の証券化などにおいて多く利用されます。

ノンリコースローンにおいては、高度なリスク判断が必要とされ、日本の金融機関は、最近になって手がけるようになりました。これに対して、資産等を担保にするほか、個人保証などにより当該資産等の範囲を超えた債権取立てがなされる融資をリコースローンといいます。いわゆる「担保融資」は、通常、リコースローンとなります。

なお、不動産の証券化等においては、ノンリコースローンを受けるのは、一般的に特別目的会社や信託受託者であって、責任財産の当初保有者（オリジネーター）ではありません。

お勧めの一冊 学校の先生が国を滅ぼす

著者：一止羊大

出版社：産経新聞出版 価格：1,680円

過激なタイトルですが、内容は今教育現場で起きていることについて書かれています。平成11年8月、「国旗及び国家に関する法律」が公布、施行されました。条文は至ってシンプルです。第一条 国旗は、日章旗とする。第二条 国家は、君が代とする。本書ではこの国旗、国歌に関し、日章旗を卒業式、入学式に掲げる掲げない、君が代音唱のときに起立をするしないが等が大問題となります。また、これらは憲法19条の思想、良心の自由に抵触するのではないかとの問題で職員と校長とがぶつかります。筆者が「話せばわかる」の心情で職員に粘り強く語りかけますが、なかなか思うような結論には至りません。いま、教育現場で何がおこっているのか、愛国心やら戦後教育を考えさせられる一冊です。



チャレンジ25キャンペーン <http://www.challenge25.go.jp/>

株式会社円昭のスタッフは6つのチャレンジを実行します。

Challenge1
エコな生活スタイルを選択しよう

Challenge2
省エネ製品を選択しよう

Challenge3
自然を利用したエネルギーを選択しよう

Challenge4
ビル・住宅のエコ化を選択しよう

Challenge5
CO₂削減につながる取り組みを応援しよう

Challenge6
地域で取り組む温暖化防止活動に参加しよう

株式会社 円昭

〒466-0031
名古屋市昭和区紅梅町3-3
TEL:052-841-2701
FAX:052-841-4301
mail@enshow.com
<http://www.enshow.com>